第 2019-16 号

恵みと真理のニュース

2019 年 04 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様！私は子供がいなくても生きられますが、神様を離れては生きられません

私は子供の頃、家族の中で私だけイエス様を信じながら信仰生活をしました。両親は田舎で果樹園をしました。主日には小学生だった私まで全ての家族が父をついて畑に行って仕事をしなければならなかったです。主日は教会に行きたかったですが、父が厳しくて教会に行けない日が多かったです。通った教会が小さい田舎教会だったので高校生だった私が主日学校の職分を任されました。それで、父親が教会に行けないようにして畑に行かせて仕事をさせると心が苦しくて痛かったです。仕事をするあいだ頭の中はうちのクラスの子供達の顔が浮かんで“神様、主日に楽に教会に行くようにしてください。”と祈りました。
ところが、子供の頃、持っていた信仰の熱情と主の恵を愛した切ない心が大人になって煙のようになくなりました。地方で学業を終えてソウルの近くの大きい都市で職場生活をしたら今まで私が見たこともなく知ったこともなくてやったこともないのが多かったです。それで、一回二回は主日を休んだらいつの間にか主日になると友達に会って山や海などに行って世の楽しみに落ちいて過ごしました。道を歩いて教会が見えると心が楽ではなかったですが、時間が立つとすぐ忘れました。
気に入る男に出会わなくて結婚が遅くなりました。一人で生活をしながらさびしくて心が疲れたごろ、急に腰に痛みがありました。４－５番の間の急性椎間板ヘルニア脱出症でした。今まで体がいろんな信号を送りましたが、気づかなかったです。様々な問題で心と体が疲れ果てている時こんな病気まで患ったので耐え忍ぶのが出来なかったです。整形外科や漢方病院に交互に通いながら手術の変わりに漢方治療を受けました。治療を受ける間、腰の痛みが酷くなりました。後には足までしびれて歩くことさえも大変でした。
体が痛くて職場を休んで離職したが会社で社長の奥さんが私を熱心に伝道をしました。恵みと真理教会の首区域長であった奥様は愛と熱情が溢れました。首区域長の助けで恵と真理教会のアンサン聖殿で礼拝に参席して決心しました。決心してしばらくは私が教会に行きたくないのを見せて嘘をついて言い訳をしても首区域長は揺れることなく力を尽くして私を教会に導くようにしました。そうした私に神様が恵の御言葉を下さって神様を恐れて熱心に礼拝を捧げる聖徒になるように変化させてくださいました。子供の頃、純粋で神様を愛したことを思いながら水曜日の礼拝と金曜日の祈り会も参席して、教区に属して区域礼拝も捧げました。私が主の前に出て熱心に信仰生活をするまで区域長を始め多くの方々の祈りと愛があったから可能なことでした。
公務員だった旦那と結婚してアンヤン市で新婚生活をしました。旦那はわたしの勧めで仕方なく私をついて礼拝に参席したりしました。私と旦那二人、遅く結婚したから早く子供を生んで育てるため切ない心で神様に祈りました。結婚して二ヶ月ぶりに妊娠しました。真で嬉しくて感謝でした。これからわたしの結婚生活が
楽しくて全てが楽になると思いました。ところが、妊娠の初期に急に下血が始まりました。下血がとまらなくて結局、子供を流産されました。とても心が痛くて悲しかったです。続いて６回も流産してしまいました。習慣性流産だと言われました。専門病院にいって多様な検査を受けて体外受精を受けてみましたが、だめでした。その過程が言葉では表現できないほど心と体が疲れて傷つきました。
結婚して８年間、子供を持つ希望が叶えられなくて人生が幸せではなかったです 。“神様！私が財物の欲
でもないのに、欲を持って願っているのではないのになぜ聖歌隊員と区域長として主の事を熱心にしますが、なぜ私にこんなに苦しみをくださるのですか。神様に聞きました。そうする間、御言葉を通してわたしの弱さを悟らせてくださり、悔い改めるようにしてくださいました。“神様！赦してください。再び、恨まないです。子供が出来なくても絶望しなくてもっと主の事をします。私を救ったことだけでも限りなく感謝します。
イエス様を信じない婚家と実家の家族まで私に攻撃する話をしました。福音を伝えるなら“神様がどこにいるのか？あなたがそんなに熱心に教会に通うのになぜ子供が出来ないのか？としました。イエス様を信じない家族が目に見えるのだけ信じようとしました。“ 涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。 神に、命の神に、わたしの魂は渇く。いつ御前に出て／神の御顔を仰ぐことができるのか。
（詩篇４２：１～３）詩篇記者の心になり神様の慰めと哀れみを求めました。旦那がむしろ私よりクリスチャンらしいでした。“あなたがそんなに真実に信じて仕える神様に全てを任せましょう。”と言いました。
私は人ができることは全部したと思い神様にこのように告白しました。“わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。”“神様！私は子供がいなくても生けますが神様を離れては生きられません。”すると神様に私に教会学校の教師の職分を預かってくださいました。
初めて進められたときは断りました。子供を養育しなかった私が子供達を見守る自身がなかったからです。周りの方々から進められて聖歌隊で奉仕をした方がいいのか教会学校で奉仕をした方がいいのか悩みました。祈りながら旦那に意見を求めると旦那の答えは簡単でした。“教会学校の教師として子供達のため奉仕しなさい。”としました。わたしはこの事を通して神様の答えだとしました。神様は私に肉親の子供の変わりに多くの霊的な子供をくださって神様の御言葉と神様の愛で養育して見守ってくださいました。
教会学校で教師として奉仕したのが５年に経ちました。子供に対する希望を完全に捨てなかったのでくる感情の波が私を苦しみますが、その時ことに神様を見上げます。私と旦那はこれ以上は医学的な試しはしなくて完全に神様に委ねました。すると、神様は私を強くしてくださり、わたしの心と体を楽しにしてくださいました。神様の恵みと愛にもっと深く悟るようにしてくださり日々楽しい心で過ごすようにしてくださいました。
性品は私より真面目で誠実な旦那が神様の恵みと愛をよく知らないのが気の毒で旦那を祝福しながら神様にたくさんお祈りをしました。神様はこのようなわたしの心を知っておられて私の祈りに答えてくださいました。旦那は主日になると平日よりもっと早起きして教会に言って私と共に８時礼拝を捧げます。家庭礼拝もよく捧げています。神様に対する信仰が成長して主のことに耳を傾けて同役者になってくださいます。このような恵をくださった神様に限り泣く感謝します。旦那を考える喜びで旨が膨れます。
わたしの夫婦が主に用いられる器になり完全に神様と共に同行する人生を生きるのを願いながら、キリストの裁きの前で褒められて賞をもらうその日を愛しながら、日々神様の恵みを感じ感謝しながら生きて行きます。今まで教会の多くの方々がわたしの夫婦のため祈ってくださいました。感謝する心を伝えることが出来ないですが、そんな私たちの心を神様は全部知っておられます。“ わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす／喜び歌い感謝をささげる声の中を／祭りに集う人の群れと共に進み／神の家に入り、ひれ伏したことを。”（詩篇４２：５）アーメン！ハレルヤ！

［信仰コラム］

過 程 と 結 末

”神は，神を愛する者たち，すなわち，ご計画に従って召された者たちと共に働いて，万事を益となるようにして下さることを，わたしたちは知っている”（ローマ書8:28）

信仰生活をしながら生じる懐疑や葛藤はまるで麻疹にかかるように誰も経験するが、信仰生活の年輪が加わりながら次第に減ります。しかし、その過程で信者達はどうして神様が私達の信仰と祈祷と努力に合う適切な応答を与えず、願わない異なる状況に至らせるのかという質問をします。このような質問に対して聖書に出る傑出な三人の体験的な事件を通じて調べてみましょう。
第一は、モ-セとイスラエル子孫達が経験した事件です。
エジプトから解放されたイスラエルの民がモ-セの導きの下で紅海の前に到達して陣を張るとエジプトの王が軍隊を連れて追撃しました。それでイスラエルの子孫達は恐怖に捕らわれてモ-セに向いて恨む言葉をしました。しかし、モ-セは慌てずに断固として”あなたがたは恐れてはならない。かたく立って，主がきょう，あなたがたのためになされる救を見なさい...”としました。自分が計画して期待したのと異なる方向に雲の柱が導いて進退両難の処されてもモ-セは慌てたり挫折しませんでした。その理由は彼が神様が予告なさった御言葉を心に置いたからです。直面した難関を結末ではない過程として認識したからです。
第二、ヨセフが経験した事件です。
篤実な信仰を持って性品が善で真実であったヨセフは神様が夢を通じてくださったビジョンを心に置きました。しかし、現実はそれとはことなる様相に進行されました。兄達がヨセフをエジプトに行く商人達に奴隷として売りました。エジプト王の侍衛長の家に売り渡されたヨセフは絶望することを拒んで勇気を出して誠実に働き、侍衛長の信任を受けました。しかし侍衛長の妻の策略で監獄に囲まれました。そのように自分が信じて期待したのと異なる状況に処されてもヨセフは慌てたり挫折しませんでした。その理由は自分が当面した苦境が結末ではなく神様が善を叶えられる過程だと認識したからです。結局、ヨセフはエジプトの総理になり国を豊かにさせ、父親と兄弟の家族を全てエジプトに招いて王を下った地であるゴセンで生きるように措置しました。父親であるヤコブがこの世を去ると報復を恐れて慈悲を求める兄達にヨセフが”あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが，神はそれを良きに変えらせて，今日のように多くの民の命を救おうと 計らわれました。それゆえ恐れることはいりません”と話しました。
第三は、使徒パウロが宣教活動で体験した事件です。
パウロが第２次伝道旅行をする時に聖霊がパウロを小アジア地域に行くことができないように遮られました。するとパウロはムシヤを経て東側に位置したビテニヤに行こうと試しました。今回にも聖霊がこれを許さないのでパウロはムシヤの西側にあるトロアスに行きました。パウロがそこで留まる時、マケドニヤの人が立って助けを求めることを幻でみました。パウロ使徒の一行はピリピ に行きました。そうしてパウロがヨーロッパ宣教の第一歩を踏み出しました。パウロ使徒はアジアに行って福音を伝えようと計画して進めたが、神様の計画はヨーロッパに送られることでした。
自分が信じて期待して祈祷して努力したことが無駄になって却って、願わない状況に進行される時に皆さんは次の三つを肝に銘じてそれに合う生活をしてください。一、善であり義でおられて真実な神様の品性に合って行う人が経験する困難は結末ではなく神様の摂理で善を叶える過程に過ぎません。二、”主よ、私が何をしましょうか？”と尋ねて主の導きと思いに従って行う日とが当面する苦境は結末ではなく神様の摂理で善を叶える過程に過ぎません。三、神様の御言葉に基づいた信仰を持って期待して祈祷しながら行動する人は期待に外れる状況に処されても挫折する理由がありません。それは結末ではなく神様の摂理で善を叶える過程に過ぎません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエスの復活が確定して保証すること

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

確定とは変動がないように確実に定めることを意味します。保証とは違いがないのを証明するか、責任を意味します。どんなことでも確定されていないか、または保証がなければ、見通しが不確実で不透明で不安です。一方、必要に応じて確定されて保証があれば楽しく平安な心で期待を持って待って積極的に行動するのができます。すべての人が共通して持っている問題があります。それは罪と死です。罪と死は、人類の祖先アダムの犯罪によってもたらされたものです。そして、アダムの子孫であるすべての人は、罪と死の束縛を被って産まれます。罪と死はすべての不安と絶望の原因です。これらの人生に神が嬉しく良い知らせを下さいました。
イエス・キリストによって救われるニュースです。誰でもイエス・キリストを信じれば罪を赦して永遠の命を得るニュースです。これらの福音が果たして真実で、実際だということを確定し、保証することができます。それはイエスの復活です。イエスの復活は、イエス・キリストを信じるすべての人に信仰の上に信仰、希望の上に望み、喜びの上に喜び、幸せに幸せを加えてくれるニュースです。
今日は、イエス・キリストの復活が確定して保証するもことについて説明します。

第一に、イエスの復活は聖書の予言が真実であることを確定して保証します。

イエスの復活は、意外な事件ではありません。予言者を通して予言されたみ言葉が成就されたものです。詩篇 16 篇 10 節に記録されることを**「あなたは　わたしを　陰府に　捨ておかれず，あなたの　聖者に　墓を　見させられないからである」**し、118 編 17 節には、**「わたしは　死ぬことなく，　生きながらえて，　主のみわざを物語るであろう」**と予言しました。
イエスは、自分が復活するのをいろいろの場所でいろいろの人に予告されました。イエスは、自分が十字架に付けられる数日の前から、彼の弟子たちに何度も復活を予言しました。
マタイ 16 章を見ると、イエスは弟子たちを連れて、エルサレムに向かって行く時、弟子たちに、自分がエルサレムに行くべきと長老たちと、祭司長たちや律法学者たちに多くの苦しみを受け、殺さなければならないこと、また　三日後に生きるのとを明らかに記録されています。**（マタイによる福音書 16:21）（17 章 22 節と 23 節に「この　時から，　イエス・キリストは，　自分が　必ず　エルサレム　に　行き，　長老，　祭司長，　律法學者たちから　多くの　苦しみを　受け，　殺され，　そして　三日目によみがえるべきことを，　弟子たちに　示しはじめられた．彼らが　ガリラヤ　で　集まっていた時，　イエス　は　言われた，　「人の　子は人々の　手にわたされ，　彼らに　殺され，　そして　三日目によみがえるであろう 」　弟子たちは　非常に　心をいためた**と記録されています。もしイエス様が復活していなかった場合、聖書の予言と、イエスの言葉は、信じられないことになります。

しかし、イエスは復活しました。したがって、イエスの復活は、聖書の予言とイエス様が自ら語られた言葉がすべて真実であることを確定し、保証します。

第二に、イエスの復活は、イエス・キリストを信じれば罪を赦して義とされることを確定して保証します。

聖書は、罪と死は不可分の関係という事実を明らかに啓示しています。神がエデンの園でアダムに命じるのを**「主なる　神はその　人に　命じて　言われた，　「あなたは　園のどの　木からでも　心のままに　取って　食べてよろしい．しかし　善悪を　知る　木からは　取って　食べてはならない．　それを　取って　食べると，　きっと　死ぬであろう」（創世記　2：16,17）**しました。アダムは蛇の誘いにより、神の命令に逆らっています。そして彼の子孫まで罪と死が及ぼすことになりました。**ローマ人への手紙** 5 章 12 節に記録されることを**「このようなわけで，　ひとりの　人によって，　罪がこの　世にはいり，　また　罪によって　死がはいってきたように，　こうして，　すべての　人が　罪を　犯したので，　死が　全人類にはいり　こんだのである」**としました。
神が罪人を救うためにあがないの計画を発表しました。それは贖いの恵みで罪のない人が罪人の罪を代わりに担当して審判を受けたので、彼を信じる者が、罪の赦しを受けて義とされているものです。アダムの子孫は例外なく罪人として生まれたので、身代わり者になる資格を持った人がいません。ところが、神は神の独り子を人の形でこの世の中に送って、罪人のための贖い者となりました。神ご自身が、あるいは予言者たちを通してなん回も、いろいろな形で語られた救い主を神が定められた時にこの世に送られました。これは処女の体に聖霊によって誕生したイエス・キリストです。
イエスは、私たちを罪から自由にして永遠の命を得るために私たちの罪を担当して十字架につけられ死なれました。しかし、イエス・キリストが死の力で勝つ復活する必要があります。もし復活していなければ、彼の十字架の苦難と死は無たになる過ぎないものとなってしまいます。なぜなら死は罪の罰だからです。しかし、イエスは復活しました。したがって、イエスの復活は彼を信じる者すべての罪が正常にそして完全に解決されたことを確定して保証します。**ローマ人への手紙 4 章 25 節に「主は，　わたしたちの　罪過のために　死に　渡され，　わたしたちが　義とされるために，　よみがえらされたのである」**しました。イエス・キリストを信じるといかなる罪も赦しを受けるが、イエス・キリストを信じていなければ罪の赦しを受ける道はありません。**ローマ人への手紙** 10 章 9 節には**「すなわち，　自分の　口で，　イエス　は　主であると　告白し，　自分の　心で，　神が　死人の　中から　イエス　をよみがえらせたと　信じるなら，　あなたは　救われる」**しました。したがって、イエスの復活は、イエス・キリストを信じる罪の赦しを受け義とされることを確定して保証します。

第三に、イエスの復活は、聖徒たちが復活することになることを確定して保証します。

イエス　は　彼女に　言われた，　「わたしはよみがえりであり，　命である．　わたしを　信じる　者は，　たとい　死んでも　生きる．　また，生きていて，　わたしを　信じる　者は，　いつまでも　死なない．　あなたはこれを　信じるか 」（ヨハネによる福音書 11：25,26）しました。イエスの復活は、このような言葉が事実と真実であることを確定して保証します。

今日の本文には、**「さて，　キリスト　は　死人の　中からよみがえったのだと　宣べ　傳えられているのに，　あなたがたの　中のある　者が，死人の　復活などはないと　言っているのは，どうしたことか．もし　死人の　復活がないならば，　キリスト　もよみがえらなかったであろう」（コリント人への第一の手紙 15：12,13）**しました。
復活は順序があります。聖書には、次のように記録されています。**「しかし　事実，　キリスト　は　眠っている　者の　初穂として，死人の中からよみがえったのである」（コリント人への第一の手紙 15:20）、「アダム　にあってすべての　人が　死んでいるのと　同じように，キリスト　にあってすべての　人が　生かされるのである．ただ，　各自はそれぞれの　順序に従わねばならない．　最初は　キリスト ，　次に，　主の　來臨に　際して　キリスト　に　屬する　者たち」（コリント人への第一の手紙 15：22,23）**としました。復活の順序は、最初はイエスであり、その次は聖徒です。
復活した体の形についても明らかに啓示されています。
「死人の　復活も，　また　同様である．　朽ちるものでまかれ，　朽ちないものによみがえり，卑しいものでまかれ，　榮光あるものによみがえり，　弱いものでまかれ，　强いものによみがえり，　肉のからだでまかれ，　靈のからだによみがえるのである．　肉のからだがあるのだから，　靈のからだもあるわけである」（コリント人への第一の手紙 15：42~44）。「彼は，　万物をご自身に　從わせうる　力の　働きによって，　わたしたちの　卑しいからだを，ご自身の　榮光のからだと　同じかたちに　変えて　下さるであろう」（ピリピ人への手紙 3:21）朽ちる体が朽ちない体に、卑しい体が栄光の体に変化します。弱い体が強い体に、肉の体が　霊の体に変化します。土に属している者の形状が天に属する者の形状で、死ぬ体が死なない体に変化します。卑しい体がイエスの栄光の体のような形状に変化します。
復活の時期についても明らかに 啓示 されています。 **「すなわち，　主ご　自身が　天使のかしらの　声と　神の　ラッパ　の　鳴り　響くうちに，　合圖の　声で，　天から　下ってこられる．その　時，　キリスト　にあって　死んだ　人々が，まず　最初によみがえり，　それから　生き　殘っているわたしたちが，　彼らと　共に　雲に包まれて　引き　上げられ，　空中で　主に　合い，こうして，　いつも　主と　共にいるであろう」（テサロニケ人への第一の手紙 4：16,17）**しました。イエス・キリストの来臨の際聖徒たちの体が変化して復活されます。
復活する時の体が変化する速度に対しても明らかに啓示されています。**「ここで，　あなたがたに　奥義を　告げよう．　わたしたちすべては，眠り　續けるのではない．　終りの　ラッパ　の　響きと　共に，　またたく　間に，　一瞬にして変えられる．　というのは，　ラッパ　が　響いて，　死人は　朽ちない　者によみがえらされ，わたしたちは　変えられるのである」（コリント人への第一の手紙 15：51,52）**しました。イエス来臨と聖徒たちの復活と変化は極めて高速な瞬間に起きるようになります。

今日の御言葉の意を考えながら、終わりいたします。第一に、イエスの復活は聖書の予言が真実であることを確定して保証します。第二に、イエスの復活は、イエス・キリストを信じれば罪の赦しを受け義とされることを確定して保証します。第三に、イエスの復活は、聖徒たちが復活することを確定して保証します。したがって、復活を信じる聖徒の皆さんは、肉体の老衰と死を嘆き、または悲しむことではありません。ただ私たちの主イエス・キリストの来臨を切に慕い礼拝と主の働きの仕事により勉めて生き行かれるのを願います。